

つくば市学校防災手帳

取扱説明書



「いざという時、大人にも子どもにも役立つものに」

内容	目次	ページ
本手帳の仕様		1
防災マップの使い方		2
手帳作成の目的		3
使用上の注意		3
学校防災手帳について		4
携帯のアイデア		4
学校防災手帳の使い方		裏面

発行：つくば市教育局 教育総務課
編集協力：国土技術政策総合研究所

本手帳の仕様

災害時に役立つ情報と防災マップ
A3両面印刷の折り畳み式

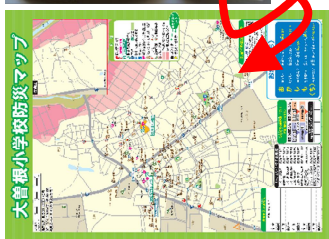
子ども版



大人版



開いた内側は
防災マップ



防災マップの使い方（基本的な使い方）

以下の内容を子どもが書き入れます。

- ・自宅の位置、災害時の待ち合わせ場所（マークはマップ右下凡例参照！）
- ・通学路

通学路の目印を書いて、地区内の自宅・待ち合わせ場所の位置関係を認識できるようにします。いつでも見て、書き込めるようにランドセルに入れて携行しましょう。

例）大曾根小学校防災マップ

【書き込もう！】
必要な情報を書き入れ、我が家オリジナルのマップにしましょう！

【公共電話の活用】
東日本大震災の際は携帯電話は使えず、公共電話が比較的つながりやすかった。

【まちの中の危険なモノ】
地震の時にブロック塀などは倒れてくるかも？
他にも地震や洪水の時に危ないモノを書き込もう。

【大切な人の連絡先】
遠方の親戚・知人など、自宅地域以外の連絡先も控えておく、非常時に家族との連絡手段となります。

【災害用伝言ダイヤル】
災害時にNTTより提供が開始される声の伝言板
・直接連絡が取れないときに活用します。
・体験利用提供日（毎月1日と15日など）を活用し、練習しておきましょう。
・公共電話の使い方も練習しましょう。

【色を塗ろう！】
地区内の自宅・待ち合わせ場所の位置関係を認識するために色を塗ろう！

【おかしも(ち)】
学校などで火災や自然災害が発生した時に、校舎の外に避難する際の注意点を示す標語です。
必ずしもこの注意点があてはまらないときもあります。
災害時は臨機応変に対応しましょう

【災害時の情報収集先】
【メールサービス】
つくば市防災メールサービス
http://www.city.tokuba.lg.jp/safety/naikaku/naikaku.html
【防災メールサービス】
http://www.pref.tokushima.jp/safety/safety/safety.html
【防災メールサービス】
http://www.pref.tokushima.jp/safety/safety/safety.html

【いざという時の連絡先】
つくば市警署 ☎867-1191
つくば市消防本部 ☎876-0110
つくば市消防本部 ☎861-0118
つくば市消防本部 ☎867-2356
大曾根小学校 ☎864-0166
大曾根中学校 ☎864-0167
NTT（電話内線） ☎120-444-113
東京ガスつくば支社 ☎0120-995-007
東京ガスつくば支社 ☎848-5151
東京ガスつくば支社 ☎836-1141

【災害時の連絡方法「171」】
災害用伝言ダイヤル
伝言の録音方法 伝言の再生方法
171ダイヤル 171ダイヤル
ダイヤルが通じない場合は
171ダイヤルを2回連続してダイヤルしてください

【おかしも(ち)】
おさない 避難する時に前の人を押しさない
おけない 避難する時には走らない
かしめなない 避難する時には走らない
しめなない 避難する時には走らない
もどらない 避難する時には走らない
もどらない 避難する時には走らない
（ち）らばらない 避難する時には走らない

【防災関係機関】
消防署・分署
指定緊急避難場所
学校
公園
飲料水兼用防火水槽
災害用井戸
AED（自動体外式除動器）
「子どもを守る110番の家」（店舗）
コンビニ
スーパー
公共電話
自動販売機
ブロック塀
洪水浸水想定区域 0.5-3m
洪水浸水想定区域 3-5m
自分の家
待ち合わせ場所
自分で書いておこう

【防災関係機関】
消防署・分署
指定緊急避難場所
学校
公園
飲料水兼用防火水槽
災害用井戸
AED（自動体外式除動器）
「子どもを守る110番の家」（店舗）
コンビニ
スーパー
公共電話
自動販売機
ブロック塀
洪水浸水想定区域 0.5-3m
洪水浸水想定区域 3-5m
自分の家
待ち合わせ場所
自分で書いておこう

手帳作成の目的

- ・手帳とマップを家族で読むこと、眺めることで、地域、学校、家庭のそれぞれで災害や事故から身を守ることを考えます。
- ・地域の人たちが、子ども達は防災手帳を携行していることを知り、もしもの時にそれぞれの子どもの対応を促します。

使用上の注意

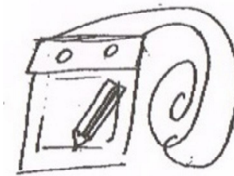
- ・子どもも大人も、まずは自分の身を守ることを考えましょう。
- ・災害時に必要な情報は各家庭で異なります。家族みんなでよく読み、話し合いながら、必要な情報を書き込み、オリジナルの防災手帳にしましょう。
- ・書き込んだ情報は、定期的に見直しましょう。

学校防災手帳について

「学校防災手帳」は茨城県教育庁の「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」の指定（平成26年度）を受けた吾妻小学校（吾妻学園）での成果を保護者（吾妻学園おやじの会）が中心となり取りまとめ「いざという時、大人にも子どもにも役立つもの」として企画・編集されたものです。これを参考に、市内の他の学校へ展開しています。

携帯のアイデア

- いつでも見て、書き込めるように、
- ・子どもは、ランドセルに入れておきましょう。
- ・保護者は、ファスナーケース等に鉛筆とともにに入れておきましょう。



子ども版

- ・家族と一緒に読みましょう。災害が起きた時に子どもが、「自分で確認すること」、「まわりの大人に知ってもらうこと」、の手帳の構成と記載内容を把握しましょう。
- ・「引き渡し」について、誰が、どの順番で来るのか（兄弟姉妹がいる場合）を確認し、どのくらい待つか理解しましょう。
- ・「待ち合わせ」は、災害発生の時間帯別に適切な場所を考えましょう。
- ・「まわりの人に伝えたいこと」は、大人の目線で、子どもの安全を考えた時に必要なことを記入しましょう。

例) 健康のこと・・・アレルギーがある、薬を服用中、など。
 家族の約束事・・・〇〇さんの家で待たせてもらうこと。

大人版

- ・まず、災害発生時の「イメージトレーニング」を始めましょう。
- ・情報の収集方法を裏面防災マップ「災害時の情報収集先」で確認しましょう。
- ・子どもたちの引き渡しについて、確認しましょう。小・中学校両方にお子さんがある家庭は、引き渡しの順番に注意しましょう。
- ・必ずしも「災害発生→避難所へ」とは限りません。災害の状況を踏まえて判断しましょう。

例) 地震後は自宅に異状が無ければ、在宅避難

- ・備えは大丈夫ですか？新しい住宅では、避難所に行くよりも自宅で過ごすことを考える方が現実的です。それぞれの家庭に合わせ、備蓄するものの種類、数を考えましょう。

